

令和6年度 自己評価計画書における中間報告

						石川県立内灘高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月集計結果	分析と課題	備考（時期・対象）
1 分かる授業の実践と家庭学習時間確保 GIGAスクール構想の一人一台端末を活用し、生徒の学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図り、進路実現につなげる。	① 授業や朝学習等において、ChromeBookやiPad等を用いて、Google for Education等の機能を効果的に活用し、家庭学習のあり方を再構築し、基礎学力を向上させる。生徒の個別最適な学びを踏まえ、協働的な学びを追求する。その結果進学、就職といった進路の実現につなげる。	教務課 進路指導課	【満足度指標】 授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。	「授業等において情報機器が効果的に活用されて学習意欲が高まった」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B 評価 (85.7%)	全科目の中で15%ほどの授業は情報機器を用いた効果的な授業を行えていないと捉えることができる。科目の特性などもあるかと思うが、ICT機器を使い、情報発信や共有を兼ねた主体的・協働的な授業のありかたを模索していきたい。	授業アンケート (7月、12月／生徒対象)
	②		【満足度指標】 学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。	「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A 評価 (91.5%)	先生方が毎時の授業を工夫されている。また、8.5%の否定的な意見には、一斉授業の中で立ち止まって考える余裕がなく、授業が進んでいることが考えられる。今後、机間巡視や個別指導などの支援で、わかりにくいと感じる生徒がなるべく減るようにしたい。	授業アンケート (7月、12月／生徒対象)
	③		【努力指標】 生徒がICT機器を進路学習・総合的な探究の時間等に活用し、個々に応じた進路学習を行っている。	「ICT機器(Chromebook・iPad・各自携帯端末)を利用して自身の進路学習・総合的な探究の時間の学習ができています」と回答する生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A 評価 (82.0%)	総合的な探究の時間の時間において、個に応じた進路学習や課題研究のためにChromebookを活用して情報収集や成果物作成、発表を行っている。今後も、目標を明示したうえでの手段としてChromebookを主体的・積極的に活用できるよう、授業の在り方を工夫したい。	授業アンケート (7月、12月／生徒対象)
	④		【努力指標】 生徒個々の学習状況の把握や学力定着を図るために適切な質・量の課題を課することができる。	「生徒個々の学習状況を把握し、学力定着を図る課題を課している」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A 評価 (81.8%)	科目によって課題や小テストの実施はさまざまであるが、多様な生徒個々の学習状況を把握し、評価するため課題や小テストを実施している。本校生徒の実情にあわせた授業づくりのために、これからも引き続き実践していただきたい。	学校評価アンケート (7月、12月／教員対象)
	⑤		【成果指標】 進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未定者を抑制する。	「進路希望未定者の割合を1年は10%以下、2年は5%以下とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	C 評価	進路希望未定者は2年49名中3名(6%)である。1年生については9月に調査実施予定である。未決定の生徒が進路行事や探究活動を通して、自己の在り方・生き方について考え目標を持つことができるよう指導していく。	進路志望調査 (5月、9月、1月／生徒対象)
	⑥		【成果指標】 個に応じた進路指導を行い、本人の進路実現達成者90%とする。	進学・就職の進路実現達成者の割合を90%とする A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	—		進路実績

						石川県立内灘高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月集計結果	分析と課題	備考（時期・対象）
2 挨拶や人間関係づくりなどに留意した生徒指導や教育相談の実践 生徒の基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高めるとともに、18歳成人に向けて自己決定力をを育む。	① 普段の挨拶や学校での人間関係の構築に向け、具体的な態度を掲げることによって生徒指導の指針とする。また学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、望ましい人間関係を構築する。	生徒課 保健相談課 総務課 学年	【満足度指標】 生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。	「学校はいじめに対しての取組や指導をしっかり行っている」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	B 評価 (89.6%)	本校のいじめ防止対策が生徒全体の理解を得るため、日頃より、教員間で連携し生徒が安心して安全な学校である事を実感できるよう、観察、声かけ等を行い、いじめ抑止につなげたい。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)
	②		【努力目標】 家庭において、スマートフォン等の使用ルールについて話し合う機会を作る。	「家庭において、半年に1度、スマートフォン等の使用ルールについて話し合い、SNSトラブル回避を行った」と回答する保護者の割合が A 60%以上 B 50%～59% C 40%～49% D 40%未満	A 評価 (66.3%)	SNSによるトラブルを防ぐためにも、スマートフォン等の使用方法について家庭において話をする機会を作ることが重要だと思われる。PTA総会、学校公開時にパンフレット等で告知を行うなど、保護者への家庭での会話の意識づけを行っていく。	学校評価アンケート (7月、12月／保護者対象)
	③		【努力指標】 課題探究を将来につなげるテーマとしてとらえている。	課題探究について「自分の将来につなげるテーマを考えた」とする生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	—		学校評価アンケート (12月／生徒対象)
	④		【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったという満足度が一層向上している。	「本校に進学して（させて）良かった」と回答する生徒・保護者の合計の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A 評価 生徒87.7% 保護者98.2%	今後も生徒が充実感を持って学校生活を送ることができるよう、地域、保護者の皆様のご協力を得ながら学校運営を行っていきたい。少しでも疑問点や不審点がある場合には迅速に対応できるよう、相談しやすい環境を整える。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒・保護者対象)
3 外部との連携と社会参画意識の醸成 同窓会や地域との連携や情報発信に努め、地域から信頼され必要とされる学校を目指す。	① 積極的な情報の発信と収集に努め、進学や就職した卒業生や地域の教育資源等を利活用して、生徒の社会参画意識を高める。	総務課	【努力目標】 同窓会や地域との連携に基づくイベントや行事を通して、生徒が地域に目を向け、社会参画意識を高める。	「同窓会や地域との連携を実感した」と回答する生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A 評価 (79.1%)	同窓生の多大なご協力のもと、年に2回、社会人講話を行っている。事後の生徒アンケートにおいても好意的な回答が多く、今後も継続して講話を実施していきたい。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)
	②		【努力指標】 ホームページやお知らせの充実等により、各ニーズに応じた学校の取組についての情報発信を行う。	「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A 評価 (93.9%)	ホームページにおける情報発信や内高日よりなど、本校の広報活動について、保護者の方から多くの好意的な意見をいただいている。今後も継続していくと共に、内容の見やすさ、わかりやすさを追求し、魅力ある情報発信に努めていきたい。	学校評価アンケート (7月、12月／保護者対象)
4 教職員の多忙化改善 デジタル技術を活用した教育手法や手段、教職員の事務作業の変革をおこない、業務の効率化を図る。	① 教員自らが働き方を見直し、担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につなげる。	教頭	【成果指標】 各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。	「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A 評価 (86.4%)	肯定的な回答をした教職員の割合が高い。各自、時間外勤務の削減に向け計画的に業務に取り組んでいる。教員数が少ないため、主任に業務が偏っていることが、少し見られるので課内での業務内容の共通理解と適切な業務分担が必要である。	学校評価アンケート (7月、12月／教員対象)
	②		【努力指標】 各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。	「デジタル技術を活用し、業務の効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A 評価 (90.9%)	各課各学年においても、積極的にデジタル技術を活用した業務改善に取り組んでいる。肯定的な回答をした教職員の割合が高く、各自、時間外勤務の削減に向け計画的に業務に取り組んでいる。	学校評価アンケート (7月、12月／主任教員対象)